

ユニットエイドが「グローバルヘルスのためのインパクト投資」 参加を表明

【ステートメント】 発表日：2024年5月28日

ユニットエイドは「グローバルヘルスのためのインパクト投資（以下 Triple I for GH）」へのパートナーシップ参加を表明しました。これは、低・中所得国における重要保健課題に対応するための新たな資金調達法を構築しようとする、ユニットエイドの取り組みを強調するものです。ユニットエイドの参加表明は、5月28日、第77回世界保健総会（於ジュネーブ、5月27日から6月1日）関連イベントの際に、鈴木秀生内閣官房広報外交担当兼国際保健担当大使、トリプルI共同議長・渋澤健氏、アヨーデ・アラキジャ氏、スティーブ・デービス氏同席のもと行われました。

鈴木秀生大使は、「ユニットエイドのTriple I参加を歓迎します。グローバルヘルス課題への財政負担は増加しており、この傾向は特に低・中所得国で顕著です。こうした状況下で、2030年までにSDGsを達成するには、公的資金活用に加え、民間資本の継続的動員が不可欠です」と指摘しました。

Triple I for GHは、グローバルヘルスにおける持続可能な資金調達支援のため、公的資金とあわせて民間資本の動員を目的とするもので、2023年5月の広島サミットで画期的なイニシアティブとしてG7首脳から賛同を得、同9月の国連総会ハイレベル会合会期中に発足が宣言されました。持続可能な開発目標（SDGs）の2030年までの達成、特にユニバーサル・ヘルス・カバレッジの強化、パンデミックの予防、備え、対応においては不可欠と言えます。

ユニットエイド事務局長フィリップ・デュヌトンは、「ユニットエイドは、グローバルヘルスにインパクト投資を活用するという、日本主導の画期的な取り組み、Triple Iに参加できることを光栄に思います。先進の医療・医薬品が最終的に必要としている人々に届けられるため、市場導入する際の価格公正化を図り、供給対象と量の拡大を支援する私たちの活動と、このパートナーシップの目的は一致するものです。

公的資金に加えて民間資本を動員することで、ユニバーサルヘルス・カバレッジの推進が加速し、パンデミックへの備えが強化されるでしょう。」と語ります。

ユニットエイドはHIV、結核、マラリアといった主要疾病の治療、診断、予防へのアクセス改善に長い間取り組んできました。Triple I for GHの一員として、70を超えるグローバルヘルス

機関や民間企業と共に、社会面・環境面での明確な利益に加え経済収益ももたらすような、影響力のある投資を促進していきます。

Triple I for GH の渋澤健共同議長は、「我々の目的は、グローバルヘルスにおけるインパクト投資についての認識を高め、ベストプラクティスを共有することで、新しい形の民間資本を呼び込むことにあります。Triple I for GH のパートナーは、低・中所得国における健康改善やグローバルヘルス課題への支援、より持続可能な世界への貢献、といった取り組みを世界的に示すと共に、企業価値を高めることもできるでしょう。この重要な取り組みにおいて、ユニットエイドとの協働を心より楽しみにしています。」と歓迎しました。

Triple I for GH は、医療サービスや製品へのアクセス向上と価格公正化に焦点を置き、低・中所得国におけるグローバルヘルス課題に取り組むプロジェクトを推進します。主なターゲット分野は、HIV、結核、マラリアといった感染症、メンタルヘルスを含む非感染症、性と生殖に関連する健康と権利、妊産婦・新生児・児童・青少年保健、パンデミックへの備えと保健システム強化、さらには診断技術、ワクチン、デジタル技術活用などの革新的製品と技術が含まれます。

###